

## アンケート結果を受けて改善したいところ

学生の授業外での学習を促進することができるよう、参考となる図書やWebページの紹介等を授業内で積極的に行うようにしたい。

4人で担当とすると1人あたりの持ち時間数が不十分で窮屈になり、内容展開や学生の理解深化に少し課題が見られるように思われたことから、来年度は担当者3人によるオムニバス展開に切り替えて充実を図りたい。なお、講義内容に関して担当者減員の影響が表れないように対処をしたい。

学生が作成した指導案の模擬授業を実施したい。

約2割の学生が、「教員とのコミュニケーションがあまりうまくとれていない」と答えていました。実験の手順・安全対策などが確実に伝わり、学生実験が安全に実施できるよう、コミュニケーションをしっかりとっていきたいです。今後は、いままで以上に机間巡視につとめ、学生から質問しやすくするために、学生に積極的に話しかけるなどしていきたいです。

授業中、学生の考えや思いを引き出したいと考えておりますが、時間の関係上、まだ不十分と反省もしております。もう少しゆとりをもった授業計画が必要かと思えます。

アンケート結果からは具体的な改善点が読み取れず、自由記述が多いとありがたく思います。

平成27年度前期「授業改善のためのアンケート」集計結果のWEBにおける、「M2:中学校及び高等学校の教科教育科目」全体と比較すると、全体としては「①強くそう思う、②ややそう思う」の比率が高い。しかし、各項目のなかで、「問4 授業で修得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる。」について「①強くそう思う」は、16.7%、「②ややそう思う」が62.5%で、①の比率が最も低い。レポートでは、修得内容についての的確な記述がみられる一方で、「授業で修得したことがらについて、自らの表現で伝えることができる」と感じている学生が少なかったことになる。これを改善するためには、授業の各場面でリフレクションの時間を増やして、学修内容を整理させ、自信をもって表現できる力を育てる必要がある。

アンケートに「課題が多くてかなり大変だった。教育実習・教員採用試験・就職活動がある4年前期にやるべき授業ではない」といった趣旨の自由記述が7件もあった。また、問1「この授業で、新しい考え方や知識・技能が身に付いた」は良い評価結果なのに対し、問9「教員の説明はわかりやすい」は悪い評価結果であった。そこで、授業の改善として以下の3点をあげる。

- ① 課題の指示をスモールステップにして、計画や準備、試行錯誤に要する時間を減らす。
- ② 学習指導要領解説や使用しているテキストから学習指導法の要点を読み取らせる方式から、それらを説明する方式に移行する。
- ③ 「教職は、熱意と分別。そして、誠意」であることを示し、各人の状況に応じて課題に費やす時間とエネルギーを自らコントロールする必要を事前に告げる。

学部学生の受講生が算数の授業に対して向き合えるように、課題提示の仕方や講義の進め方、提出課題等を工夫していることが一定の評価を得たものと解釈している。今後より評価が高くなるよう一層精進したい。

学生の実態把握が十分でなく、講義内容をその都度変更して対応したが、講義内容の深まりについて十分ではなかった。今後は、より学生に考える時間を確保し、学生自らが教育に精通できるよう工夫したい。

「一回当たりで扱われる授業内容の量」や「授業の難易度」について、「ちょうどいい」が大半を占めているのは、今後の参考となり継続していきたいが、「教育目標が達成できたか」など、ほかの項目において、回答率のばらつきが多いことに課題があるといえるので、具体的な目標の提示のしかたや学生の意見交換の方法も含めて改善を試みる。

同様の内容を理系、文系の2つのクラスで行っているが、「問11授業の難易度」に関して、最頻値は理系クラスで「ちょうど良い」が6割強であるのに対して、文系クラスで「難しい」が5割強であった。特に文系クラスでは取り付きにくいと感じる科目でもあるので、できるだけ身近な現象を取り上げ興味を持てる内容となるよう配慮したつもりであったが、さらに改善の必要性を感じた。難しいと感じても知っておくべき知識であることを理解することも重要であるので、内容や説明の方法をもう一度吟味し、見直す予定である。

高校在籍時の理科の履修科目によって受講者の知識にばらつきがあるので、その点に留意して授業を行いたい。

授業内容の量が多いと答えた学生がややおりましたので、よりポイントをしぼって、大事なことをしっかり伝えたいと思います。